

校長室から

校長室だより 第9号
令和4(2022)年2月28日発行
文責 宮城県宮城野高等学校
校長 佐藤 誠



<3年次の皆さん、いよいよ卒業を迎えることになりました>

1月7日(金)の全校集会を区切りとして冬季休業明けの学校が再開しました。その後は、3年次は大学入学共通テスト、1月半ばからの急激な県内のコロナ感染の拡大、そして本校でも何度かの臨時休校を経て、2月以降は1・2年次は分散登校と学年末考査、3年次は先日の国公立大2次試験と、何とか学校生活を継続してきました。慌ただしく気の抜けない2ヶ月だったような気がします。

そして本日2月28日(月)は、3年次の生徒の皆さんは同窓会入会式、明日3月1日(火)にはいよいよ卒業式を迎えることになりました。宮城野高校で過ごした3年間は、長かったでしょうか、それともあとという間に過ぎてしまったのでしょうか。約2年間近くは、コロナと共にある中で学校生活だったので、長かったのか短かったのかよく分からない、という人も多いかも知れませんね。

明日の卒業式で、3年次の生徒の皆さんには私から式辞の中でお話ししますし、本日の同窓会入会式では同窓会代表からご挨拶もありますが、おそらく同窓会のそもそもをあまりよく知らないという生徒の皆さんが多いと思われるので、この後裏面で同窓会について私からも少し紹介することにします。

<1・2年次の皆さん、この3月は人生を決める1ヶ月かも知れません>

さてこれから3月末まで、高校入試のために出校日数が大きく減ります。当然授業時数も少ししか確保できませんが、だからといって生徒の皆さんが学習をしなくて良いわけではありません。今年の足りなかったところの補充・復習、そしてできるなら次年度に向けての予習・先取り学習に取り組んでください。何もしないで過ごすには、この3月はあまりにも重要すぎます。この1ヶ月をしっかりと学習に取り組む人と何もしないで過ごす人では、4月からのスタート時のみならず、1年後の実力に大きな差が生まれるに違いありません。良い結果は、誰かがくれるものではなく、自分で勝ち取るものです。

生徒諸君に向けて、年明け全校集会でお話しした講話の内容を掲載します。あらためて一読ください。

令和3年度 冬季休業明け全校集会 講話

皆さんおはようございます。校長の佐藤誠です。

新しい1年、2022年・令和4年が始まりました。一年前の冬にも増して、厳しい寒さの年末年始でしたが、皆さんはこの冬休み・年末年始をどのように過ごしましたか。予報では、今日までは全国的な寒波が続くそうなので、引き続き、各自で体調に気をつけながら過ごして欲しいと思います。

この冬休み期間中に大きな事故の報告もなく、新年最初の登校日である今日、こうして皆さんに新年の挨拶ができることを大変うれしく思います。

3年次の皆さんは、3月1日の卒業を迎えるまでの宮城野高校で過ごす学校生活が、いよいよ残り2ヶ月を切りました。その中であつても、これから多くの生徒の皆さんが、大学入学共通テストや各大学の個別試験を受験し、自分の進路を決定するための本番に臨むこととなります。時間は限られているかも知れませんが、最大限に有効活用して、自分のレベルをアップさせ、体調を整え、そして自分を信じて、最後まであきらめることなく、前向きにチャレンジして欲しいと思います。

また、既に卒業後の進路先が決定した人も、何もせずに過ごすには2ヶ月は長すぎます。ぜひ、4月以降の生活、そして将来に向けて、英語力、特に英会話力のアップにチャレンジすることをお勧めします。今現在、そして将来の社会生活の中で、どんな業界・業種であつても、必ず外国の方とのコミュニケーションの場面が出てきます。そんな時に、積極的に参加し、力を発揮できるよう、今から意識して取り組んでみましょう。

さて、1・2年次の皆さんは、これからは、次の年次に備える締めくくりの3ヶ月となります。短期・中期・長期の、それぞれの目標を確認して、自分のレベルアップを図って欲しいと思います。中には、日々の学校生活や学習に不安を感じている生徒もいるようです。ぜひ、家族や友人、そして先生方に相談していただくことで、少しでも不安の軽減につなげて欲しいと思います。また、学習面に不安がある人は、毎時間の授業時間を大切に、分からないところはそのままにせず、学習

内容をゆっくりでもいいから理解できるように、着実に取り組んでください。

先日の「校長室だより」で、長期記憶について紹介したとおり、学習した知識、覚えたスキルを定着させるには、繰り返しが大切です。1度で自分のものにならなくても、2度、3度と繰り返すことで、だんだん分かるように、記憶に残るように、うまくできるようになっていきます。そして、そのような繰り返しの機会を作るためには、授業中だけでなく、他の時間を活用した取組も必要です。

よく「家庭学習」という言い方をしますが、必ずしも「家庭＝自宅」で勉強しなければならないわけではありません。授業以外の学校にいる時間、公共交通で通う通学時間など、工夫すれば活用できる時間がそれぞれあるはずですが、自分の生活パターンを考えて、「スキマ時間」もうまく活用しながら学習に取り組む習慣を身に付け、予習・復習、宿題・課題・レポートなどに積極的に取り組んでください。

多くの人が経験的に理解しているように、スポーツも芸術活動もそして学習も、「やった分しか身に付かない」のです。自分のやる気スイッチは、自分で押すしかないのです。

最後に、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大の情報も各地で見られるようになりました。宮城県内でも、このところ少しずつ感染報告が増えて来ましたが、さらに、昨日は仙台市内で県内初となるオミクロン株の感染が報告されました。3回目のワクチン接種や飲み薬の開発なども進められてはいますが、今のところ、何か劇的な特効薬や絶対的な対策はありません。今までと同じように、これからも毎日の学校生活を続けていけるよう、生徒の皆さんには、引き続き、これまで取り組んできた感染予防対策を継続しながら、学校そして家庭での生活を送って欲しいと思います。

では皆さん、今年が充実した1年となることを願っています。

以上で、冬休み明けの全校集会でのお話を終わります。
令和4年1月7日 校長 佐藤 誠

<宮城野高校の「同窓会」について紹介します>

本校は平成7年4月開校で、第1回卒業式が行われ1回生286名が卒業したのが平成10年3月です。そして明日、25回生である3年次の生徒の皆さんが、第25回卒業式を迎えることになっています。昨年度卒業の24回生までの卒業人数は、美術科922名、普通科3,769名、総合学科1,881名、合計6,572名となっています。1万人を超えるには、あと15年近くかかることになりますね。

さて、では「宮城野高校同窓会」という組織はいつできたのか。それは、まさしく本日の同窓会入会式に、同窓会代表として、現同窓会長の上野岳さん(10回生)に代わりご挨拶をいただく同窓会副会長であり本校1回生の柴田康博さんが一番よくご存じです。なぜなら、柴田さんたち1回生が卒業を迎える平成10年3月1日の直前、平成10年2月27日(金)に「同窓会発会式」が行われ、正式に同窓会がスタートしたからです。初代の同窓会長には、1回生の田畑洋行さんが就任しました。そして、第1回卒業式当日3月1日付で、同窓会報『蒲公英』創刊号が発行されました。同窓会報は、第2号以降は名称をひらがなの『たんぽぽ』と変えて、令和3(2021)年2月27日発行の第19号まで発行が続いています。

本校創立10周年記念誌『野を讃ふ～宮城野高校の10年～』に、この『蒲公英・たんぽぽ』の由来についての記事がありますので、掲載して紹介します。なお、この『蒲公英・たんぽぽ』の命名は、1回生の阿部真奈美さんによるものとの紹介もあります。以下、記事です。

同窓会愛称決定! 「蒲公英 たんぽぽ」

“たんぽぽ”この花を知らない人はいないでしょう。この身近な花の名が宮城野高校1期生の同窓会の愛称となりました。それなりにきちんと由来があるんです。

たんぽぽ一本州の野原や道端等に生息し、早春から見られる。我々がたんぽぽと呼んでいる花は実は集合体で、多くの花から成っている。そして、3～4月頃、風に乗せて綿毛を飛ばす。

つまり、一つの集団が多くの個人から成り、それぞれが時を迎えると旅立ち、それぞれの地に根づくことに準(なぞ)らえています。阿部真奈美さんが考えました。

なかなか、いい名前だと思いませんか? この名に負い目を感じることも無く、自分らしい未来を築いていって欲しいと思います。私達には戻れる場所があることを忘れないで下さい。

どんな花より たんぽぽの花を あなたに贈ります。

ある歌の歌詞の一部です。

『蒲公英』創刊号(平成10年3月1日)

同窓会発会の後、成立した会則に基づき年1回の総会開催を目指したそうですが、なかなか実現に至らず、第1回同窓会総会が開催されたのは、平成13年3月17日でした。総会開催に向けては、平成12年4月から準備委員会を立ち上げて準備を開始し、やっと開催にこぎ着けたとのことでした。

しかし実際に開催した第1回総会は、総会そのものは本校体育館で、第二部として懇親会を国際ホテルで行い、3回生までの卒業生しかいない新設校でありながら、来賓を含めて400名を越す出席者が集まったとのこと、当時の関係者の皆さんの意気込みが感じられます。これだけの人数を集める同窓会総会を開催している県立高校は、たとえ伝統校であってもなかなかないと思います。

そして、ここしばらくは総会は9月頃の開催として進めており、毎年の開催が困難な状況もあったりして2年に1回の開催とした時期もありましたが、私が本校に教頭として勤務した平成27年度・28年度もそれぞれ9月開催の総会に出席させていただきました。しかし今は、コロナ感染拡大の影響により、令和2年度・3年度の総会は開催を見送り、現在に至っています。昨年11月27日(土)に本校を会場に、同窓会幹事会が開かれました。実施できない総会に代わる議決と協議・確認を行うためです。その中で、令和2年度の事業・決算報告、令和3年度の事業計画・予算案、令和3年度役員案が審議され、それぞれ承認されました。また、会報『たんぽぽ』20号は、令和4年7月の発行を目指すことになりました。本来は、この内容も会報『たんぽぽ』20号の中で同窓生の皆さんにお知らせするものです。

さて、同窓会の歴代会長を紹介します。初代会長は、先程紹介した同窓会設立当時に就任し、平成17(2005)年までの7年間お務めになった1回生の田畑洋行さんです。ちなみに田畑洋行さんは、現在県内の県立高校で数学の教員として勤務されています。第2代会長は、6回生の堀 清志さんです。堀さんは、平成17年に創立10周年記念の各種事業が実施されるのを機に会長に就任され、平成23(2011)年までの6年間会長を務められました。第3代会長は、10回生の庄司 諒さんです。庄司諒さんは、令和元(2019)年までの8年間会長を務められました。私が教頭で勤務していた時の同窓会長は、庄司諒さんです。

そして第4代が、現会長である10回生の上野 岳さんです。上野岳さんには、同窓会の立場から、昨年度各種事業を実施した本校の創立25周年記念事業に尽力いただきました。歴代会長の皆さん、同窓会の運営、そして本校へのご支援とご協力に感謝申し上げます。

最後に3年次の生徒の皆さんへ。同窓会という組織にどのように関わるか、それぞれのやり方があっていいと思います。今日の同窓会入会式で披露される、各HRで選出された「同窓会ホーム幹事」の皆さん、そして年次代表として選出された「常任幹事」の皆さんには、まずは自分のHRで、そして同じ年次単位で、積極的に連絡を取り合う核として、会合やイベント、いわゆる同級会など、さまざまな場面で旧交を温め、そして宮城野高校同窓会本体の活動にも積極的に参加してもらえることを期待しています。